

「フィールド調査資料アーカイブズと個人情報」 公開ワークショップ

言語学や文化人類学の分野ではこれまで膨大な量のフィールド調査資料が蓄積されています。そしてたとえばアイヌ語のようにこれからの新たな調査で同じ質の資料を得ることのできないフィールドも多く、今後の研究のため、これまでの研究の検証のため、そして当事者による伝統文化活動への還元のためには、これまでの調査資料をアーカイブズ化して活用することが不可欠です。

しかし現状では、研究者の死後に遺品の資料が博物館に寄贈されることがときおりある程度で、組織的な資料の保存と活用の流れはできていません。その理由の一つとして考えられるのが、フィールド資料のなかに避けがたく含まれる公開不可能な個人情報を適切に保護しつつ資料の活用を図るための方策が確立していないことです。

そこでこのたび、被調査者の人権とくに個人情報を適切に保護できるフィールド調査資料アーカイブズの構築へ向けて、フィールド言語学、アーカイブズ学、法学の3分野の専門家によるワークショップを企画しました。皆様ふるってのご参加をお待ちしております。

日時・場所

2006年3月4日 12時～17時20分 札幌学院大学 G 館特別会議室

プログラム

12:00～12:50 報告1 奥田統己（札幌学院大学）

趣旨説明、フィールド調査の現状と資料管理上の問題点

13:00～13:50 報告2 加藤聖文（国文学研究資料館）

フィールドワーク資料の管理・公開をめぐる諸問題

研究者アーカイブズを中心に

14:10～15:00 報告3 小川正人（北海道立アイヌ民族文化研究センター）

北海道立アイヌ民族文化研究センターにおける資料の公開

アイヌ文化・アイヌ史資料アーカイブズのあり方へ向けた取り組みとして

15:10～16:00 報告4 韓永学（北海学園大学）

個人情報保護法制の現状と課題 研究資料アーカイブズ分野を中心に

16:20～17:20 討論

問い合わせ先：札幌学院大学奥田研究室（011-386-8111）

本ワークショップは科学研究費補助金による研究プロジェクト「アイヌ語諸方言の調査・資料の保存・整理・公開版作成と資料アーカイブの構築準備」の一環です。